

ニュージーランド リンゴ・ナシ産業が初めて10億NZドルを突破

[FreshPlaza 2025年2月10日](#)

本日発表された新しい経済効果のデータによると、ニュージーランドのリンゴ・ナシ産業は、果樹園の出荷価格(OGR)が初めて10億NZドルを超えた。(1NZドル=約86円)

この産業がサイクロン「ガブリエル」による大きな打撃を受けてから約2年が経ち、ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会(NZAPI)は、2024年の経済効果データを発表し、年間の農場出荷額が10億NZドルを超え、ニュージーランド経済に合計25億NZドルの経済効果をもたらしたことを明らかにした。

これは、2023年の経済効果の19億NZドルから27%の増加となる。この業界では現在、1万3,500人以上が雇用されている。

さらに、同協会の年間収穫予測では、2025年の収穫量は2024年の1,910万箱から2025年には2,100万箱に10%増加するとされていることから、この上昇軌道は続くと思込まれる。

同じく本日発表された年次別収穫量推定データは、2025年には価値の高い健全で高品質な果実が優れた収穫をもたらすと予測している。

教科書通りの冬と春の生育条件により、ニュージーランドのリンゴとナシの収穫物は、色、食味、風味が素晴らしいことが保証されている。果実は驚くほど健全で、貯蔵性はこれまでになく良好であると予想される。

NZAPIのカレン・モリッシュCEOは、今シーズンの収穫は、業界にとって困難な数年間の時を経て元の形に戻り、また価値のより高い品種への移行を反映していると述べている。(以下「」は同氏の発言)

「ニュージーランド産のリンゴとナシはプレミアム製品としてよく知られている。我が国は世界最大のリンゴ供給国ではないが、世界的にその評価は高い。当協会の生産者達は、健全、清潔で、持続可能な果実を生産することに誇りを持っており、今年の収穫はまさにそれに値する。」

業界の主要な輸出市場での需要は旺盛で、消費者は常にニュージーランド産果実を求めているとモリッシュ氏は言う。

「ニュージーランドや我々が生活し働く地域に対するこの業界の経済的な貢献に、我々は大きな誇りを持っている。また、経済効果に関する統計は、この業界の仕事の価値を浮き彫りにしている。」

「栽培面積にほとんど変化がなく、コストが増加しているにもかかわらず、我々の経済的貢献は拡大しており、これは生産性の向上、価値の高いライセンス品種への投資、及び国際市場の多様化によるものと確信できる。我々の業界は持続可能な手段によってその貢献を拡大しており、当協会は繁栄の継続を助長する健全な運営環境をしっかりと維持したいと考えている。」

地方レベルでの成長傾向が続いている。ホークスベイ地方では、全国のリンゴとナシの収穫量の65%が生産されており、業界は合計13億NZドルの経済効果に貢献した。GDPへの貢献度は37パーセント増の5億8,300万NZドルである。現在、7千人以上を雇用している。

タスマン地方では、全国の収穫量の23%が生産されており、業界は合計3億8,300万NZドルの経済効果に貢献した。GDP貢献度は8%増の1億7,900万NZドルで、現在、3,300人以上を雇用している。

タイラフィティ地域(主にギズボーン地方)では、全国の収穫量の5%が生産されており、業界は合計7,500万NZドルの経済効果をもたらし、GDP貢献度は2023年の2,500万NZドルから3,500万NZドルへと38%増加した。約100人を雇用している。

セントラル・オタゴ地区(オタゴ地方)では、全国の収穫量の4%が生産されており、この産業は6,500万NZドルの経済効果を有し、GDPへの貢献度は8%増の3千万NZドルとなった。